

平成23年度 第22回 関東高等学校バスケットボール新人大会

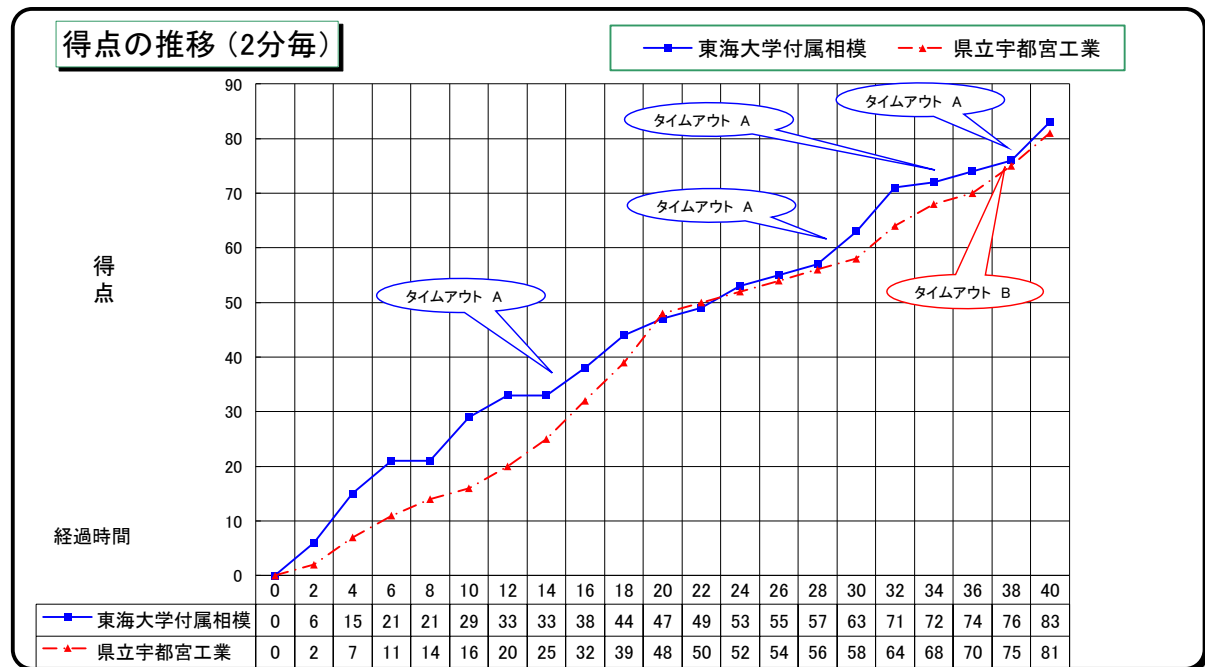
【男子】 <1回戦>

平成24年 2月11日(土)	ひたちなか市総合運動公園総合体育館	大会1日目	Aコート	第3試合 12:00~	
<チームA> 東海大学付属相模 神奈川		83 { 29 1Q 16 } { 18 2Q 32 } { 16 3Q 10 } { 20 4Q 23 }		<チームB> 県立宇都宮工業 栃木	
主審: 稲葉 威(茨)		副審: 川北 聖人(茨)			

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	中山 拓哉	22		7	8	2
◎	5	津久井 溪	7	1	2		4
○	6	赤堀 友紀	1			1	1
◎	7	田代 暉	20	1	7	3	3
◎	8	佐久間 海	10		5		2
	9	岡野 貴樹					
	10	小池 拓馬					
	11	新井 哲史					
	12	春日 孝太					
○	13	木村 嗣人	14		6	2	1
◎	14	本多 秀之	9		4	1	3
	15	早川 直樹					
	16	柳田 秀則					
	17	前園 翔平					
	18	石川 智貴					
コーチ		大石 宏志					
合計			83	2	31	15	16

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	佐藤 翔耶	20	4	4		4
◎	5	中居 康平	17		7	3	4
◎	6	國分 優太	27	4	6	3	4
◎	7	萩原 陵太	13		5	3	4
◎	8	塩野 修平	4		2		5
	9	大森 真綾					
○	10	藤井 明生					3
	11	魚谷 秀也					
	12	福田 耕平					
	13	安藤 貴亮					
	14	関口 和明					
	15	小坂 真治					
	16	金田 優弥					
	17	岡田 暢輝					
	18	市川 翔太					
コーチ		千村 隆					
合計			81	8	24	9	24

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート(本数) / 2P:2点シュート(本数) / FT:フリースロー(本数) / Foul:パーソナルファウル



戦評 記入者: 斧田 典之

第1P立ち上がり、東海相模は⑦田代のゴール下での1対1で先制すると、オールコート2-2-1ゾーンプレスからの2-3ゾーンディフェンスで宇都宮工を苦しめる。たびたびスティールからの速攻で得点し、途中からはオールコートマンツーマンプレスに切り替えて、完全にゲームの主導権を握る。対する宇都宮工も④佐藤の3p等で対抗、ディフェンスもオールコートマンツーマンプレスで何度となく5秒オーバータイムを奪うがなかなか直接得点には結びつかず、29-16と東海相模リードで第1P終了。

第2P序盤はしっかりとしたディフェンスリバウンドを見せる東海相模が④中山の1対1等で得点していくが、中盤から宇都宮工がハーフコートでのボールマンへのプレッシャーを強め始めると流れは一変。スティールが速攻につながり、オフェンスにリズムができ、⑥國分の3p、⑦萩原のドライブインなどが決まり始める。終了間際には⑥國分の3pが決まり、ついに48-47と宇都宮工が逆転して第2P終了。

第3Pはお互いに相手のシュートに対するプレッシャーが強まり、思うようにシュートが決まらない我慢の展開が続く。ディフェンスの集中力が高まって行き、息詰まる攻防が続く中、63-58と東海相模が再びリードを奪って第3P終了。

第4P、ディフェンスリバウンドからの速攻が始め東海相模がリードを広げるが、宇都宮工も高い集中力で④佐藤、⑥國分の3p、⑤中居のドライブインなどで追いつき、一進一退の攻防は終盤まで続く。残り30秒、東海相模は1点リードの場面で④中山がフリースローを2本とも落ち着いて決めリードを3点に広げる。対する宇都宮工は残り14秒、⑥國分がこの日4本目の3pを決めて同点に追いつく。延長かと思われた試合終了間際、東海相模⑦田代がステップインシュートを決めたとところで試合終了。お互いに勝負所で高い集中力を発揮しあった好ゲームは、83-81と2点差で東海相模が制した。